

保護動物のいのちをつなぐために…
『高齢者ケアファミリーネットワーク』の提案

1. 犬・猫〈殺処分ゼロ〉を実現するには、譲渡先の確保が不可欠！

	飼養頭数※	引き取り数※※				計	譲渡数※※ (譲渡率)	自治体による 処分数※※ (殺処分率)
		飼い主から		所有者不明				
		成熟個体	幼齢個体	成熟個体	幼齢個体			
犬	9,917千頭	5,756	706	32,517	7,670	46,649	16,417 (35.2%)	15,811 (33.9%)
		6,462		40,187				
猫	9,874千頭	7,646	6,415	18,002	58,012	90,075	22,692 (25.2%)	67,091 (74.5%)
		14,061		76,014				
合計	19,791千頭	20,523		116,201		136,724	39,109 (28.6%)	82,902 (60.6%)

※平成27年ペットフード協会調べ ※※平成27年度環境省調べ

保健所や動物愛護センターでの引き取り数（遺棄された犬猫）に比べて、

譲渡率は3割に満たない！（猫の場合は74.5%が殺処分）

**〈殺処分ゼロ〉を実現するには、
8万頭の譲渡先を発見し、開発しなくてはならない！！**

2. 行政にみる保護動物の譲渡対象者の条件 ①

	大阪市	京都市	神戸市	奈良県	東京都
年齢	20歳以上65歳以下（66歳以上の場合は、65歳以下で責任をもって動物の世話を引き受けてくれる方がいる）	基本的に年齢制限なし ※詳細を愛護センターに問い合わせると65歳以上は後見人が必要	20歳以上74歳未満（65歳以上74歳未満の方は誓約書が必要）	20歳以上おおむね65歳未満（飼育に関わる65歳未満の家族がいる場合は65歳以上でも可）	20歳以上60歳以下
居住地		京都府域	兵庫県内	奈良県内	都内在住
飼養頭数制限			猫を2匹以上飼育していない	他の動物を飼養していない	既に犬猫を飼っている方には譲渡しない
終生飼養	○	○		○	
適正飼養のための経済的余裕	○			○	経済的・時間的負担が難しい方には譲渡しない
不妊・去勢手術	○		○	生後6か月までをめどに不妊・去勢	○
名札・マイクロチップ				所有者明示	

行政にみる保護動物の譲渡対象者の条件 ②

	大阪市	京都市	神戸市	奈良県	東京都
家族の同意	○	○	○	○	○
住まいの条件	管理規約等で飼養が承認されている	ペットの飼養が制限されていない住宅に居住	管理規約で飼養が認められている	ペット可の証明書 近隣の理解がえられること	管理組合、家主の許可が必要
転居の予定	動物が飼えないところへの転居はない		転居の場合、猫の飼育を任せられる人がいる	近々転居の予定なし	転勤などで引っ越し可能性がある方には譲渡しない
猫の室内飼養				○	
譲渡講習会への参加	○		○	○	
自宅訪問			譲渡前、譲渡後に自宅訪問調査	自宅訪問調査、譲渡後調査	
世帯の条件				・日常の世話は大人がする ・動物だけを残して日常的に1日4時間以上留守にしない	

行政にみる保護動物の譲渡対象者の条件 ③

	大阪市	京都市	神戸市	奈良県	東京都
営利目的ではない	○		○	○	
法令等順守	○			○	

譲渡対象者の条件で、行政間で大きく異なるのは年齢制限

- ・京都市市：年齢制限なし
- ・神戸市：74歳未満
- ・東京都：60歳未満

日本老齢学会が、現在「65歳以上」とされる高齢者の定義を「75歳以上」に引き上げるべきだとする国への提言を公表。

保護動物の譲渡対象条件も、この提言に準じて「准高齢者」（65歳～74歳）にも譲渡するよう緩和すべきではないか。

2017年(平成29年)1月6日(金曜日) 17

「高齢者は75歳から」

日本老齢学会が「65歳以上」とされる高齢者の定義を「75歳以上」に引き上げるべきだとする国への提言を公表した。心身健康な高齢者が増えたとの提言をまとめるに当たり、同学会は高齢者の様々な健康データを解析し、日本老齢学会副理事長の秋津雅彦(東京大学)が提言をまとめた。提言によると、医療の進歩や健康意識の高まりで、高齢者が健康で生活できる期間が長くなり、現在の高齢者は100歳まで生きることが可能になると見込まれる。提言は、高齢者が健康で生活できる期間が長くなり、現在の高齢者は100歳まで生きることが可能になると見込まれる。提言は、高齢者が健康で生活できる期間が長くなり、現在の高齢者は100歳まで生きることが可能になると見込まれる。

学会が提言

65～74歳は「准」90歳以上は「超」とすることを提言

年齢	人口
超高齢者(90歳以上)	196万人
高齢者(75歳以上)	1506万人
前期高齢者(65歳以上)	1766万人

(注)人口は総務省人口推計(2016年12月1日時点)による

定義見直し 高いハードル

雇用・年金制度の改革急務

高齢者の定義を75歳以上に引き上げるべきだという提言は、労働力人口が毎年数十万人ずつ減っていく中、高齢者の割合が増えるという現実を踏まえ、現行の雇用・年金制度を見直し、高齢者の生活を支えるための改革が急務だと提言している。

3. 准高齢者は、飼いたくても飼えないとあきらめている

犬の飼育阻害要因など年代別にみる特徴一覧（50代～70代）

年代	阻害要因 (犬)	あったらいいと思う 飼育サービス	飼育のきっかけ (犬飼育者)	ペット飼育の効用 (犬飼育者): 自分自身 TOP2
50代	①「十分に世話ができないから」: 33.3% ②「死ぬとかわいそうだから」: 30.7% ③「別れが辛いから」: 30.7%	①「旅行中や外出中の世話代行サービス」: 42.9% ②「飼育が継続不可能な場合の引き取り手斡旋サービス」: 31.8% ③「健康保険料、生命保険料などが減額になるサービス」: 30.4%	①「生活に癒し・安らぎが欲しかったから」: 26.6% ②「以前飼っていたペットが亡くなったから」: 24.5% ③「子供にせがまれたから」: 19.3%	①「生活に潤いや安らぎを実感できるようになった」: 56.5% ②「孤独感を感じなくなった」: 50.3% ③「健康的になった」: 41.8%
60代	①「別れが辛いから」: 32.1% ②「死ぬとかわいそうだから」: 28.4% ③「十分に世話ができないから」: 26.1% ③「以前のペットを亡くしたショックが癒えていないから」: 26.1%	①「旅行中や外出中の世話代行サービス」: 46.5% ②「高齢で飼育不可能な場合の受入施設提供サービス」: 33.5% ③「飼育が継続不可能な場合の引き取り手斡旋サービス」: 27.6%	①「以前飼っていたペットが亡くなったから」: 37.9% ②「生活に癒し・安らぎが欲しかったから」: 29.2% ③「子供にせがまれたから」: 14.6%	①「生活に潤いや安らぎを実感できるようになった」: 57.4% ②「孤独感を感じなくなった」: 53.3% ③「健康的になった」: 47.5%
70代	①「最後まで世話をする自信がないから」: 37.5% ②「別れが辛いから」: 32.1% ③「死ぬとかわいそうだから」: 30.0%	①「高齢で飼育不可能な場合の受入施設提供サービス」: 43.7% ②「旅行中や外出中の世話代行サービス」: 40.1% ③「飼育が継続不可能な場合の引き取り手斡旋サービス」: 38.7%	①「以前飼っていたペットが亡くなったから」: 45.2% ②「生活に癒し・安らぎが欲しかったから」: 33.9% ③「家族や夫婦のコミュニケーションに役立つと思ったから」: 23.2%	①「生活に潤いや安らぎを実感できるようになった」: 62.2% ②「健康的になった」: 50.0% ②「孤独感を感じなくなった」: 50.0%

生活に潤いや安らぎを実感し、健康的になった！

最後まで世話をする自信がない！

出典：平成27年全国犬猫飼育実態調査（一般社団法人ペットフード協会）

*上位3位まで表記。

高齢者にとって犬と暮らすことは、大きな安らぎであり、健康にも役立つ！
しかし、最後まで世話をする自信がない！！

3. 准高齢者は、飼いたくても飼えないとあきらめている

猫の飼育阻害要因など年代別にみる特徴一覧（50代～70代）

年代	阻害要因 (猫)	あったらいいと思う 飼育サービス	飼育のきっかけ (猫飼育者)	ペット飼育の効用 (猫飼育者): 自分自身 TOP2
50代	①「死ぬとかわいそうだから」: 25.2% ①「集合住宅に住んでいて、禁止されているから」: 25.2% ③「十分に世話ができないから」: 24.3%	①「旅行中や外出中の世交代行サービス」: 42.9% ②「飼育が継続不可能な場合の引き取り手斡旋サービス」: 31.8% ③「健康保険料、生命保険料などが減額になるサービス」: 30.4%	①「以前飼っていたペットが亡くなったから」: 25.2% ①「生活に癒し・安らぎが欲しかったから」: 25.2% ③「子供にせがまれたから」: 16.3%	①「生活に潤いや安らぎを実感できるようになった」: 60.8% ②「孤独感を感じなくなった」: 53.1% ③「ハリのある生活が送れるようになった」: 43.1%
60代	①「死ぬとかわいそうだから」: 29.3% ②「別れがづらいから」: 24.0% ③「以前のペットを亡くしたショックが癒えていないから」: 21.3%	①「旅行中や外出中の世交代行サービス」: 46.5% ②「高齢で飼育不可能な場合の受入施設提供サービス」: 33.5% ③「飼育が継続不可能な場合の引き取り手斡旋サービス」: 27.6%	①「以前飼っていたペットが亡くなったから」: 21.4% ②「生活に癒し・安らぎが欲しかったから」: 16.6% ③「子供にせがまれたから」: 13.1%	①「生活に潤いや安らぎを実感できるようになった」: 53.8% ②「孤独感を感じなくなった」: 53.0% ③「ストレスを抱えなくなった」: 40.2%
70代	①「最後まで世話をする自信がないから」: 29.6% ②「死ぬとかわいそうだから」: 27.8% ③「別れがづらいから」: 26.0%	①「高齢で飼育不可能な場合の受入施設提供サービス」: 43.7% ②「旅行中や外出中の世交代行サービス」: 40.1% ③「飼育が継続不可能な場合の引き取り手斡旋サービス」: 38.7%	①「以前飼っていたペットが亡くなったから」: 31.1% ②「生活に癒し・安らぎが欲しかったから」: 25.6% ③「家族や夫婦のコミュニケーションに役立つと思ったから」: 22.0%	①「生活に潤いや安らぎを実感できるようになった」: 53.6% ②「孤独感を感じなくなった」: 50.0% ③「ストレスを抱えなくなった」: 35.7% ③「プラス思考になった」: 35.7%

生活に潤いや安らぎを実感し、孤独感やストレスをなくなり、プラス思考に！

最後まで世話をする自信がない！

* 上位3位まで表記。

高齢者にとって猫と暮らすことは、大きな安らぎであり、ストレスが軽減し、プラス思考になった！
しかし、最後まで世話をする自信がない！！

3. 准高齢者がペットを飼うのをあきらめている

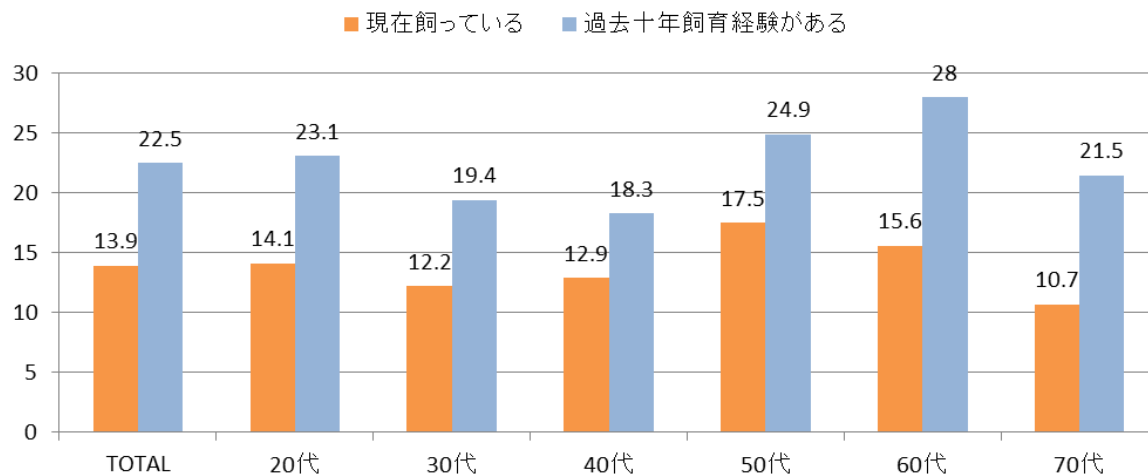
●前出した平成27年度ペットフード協会のデータによると、現在の飼育状況を過去10年の飼育経験と比較すると、犬も猫も大幅に減っている。

●なかでも、准高齢者が10年前と比較して飼っていない。

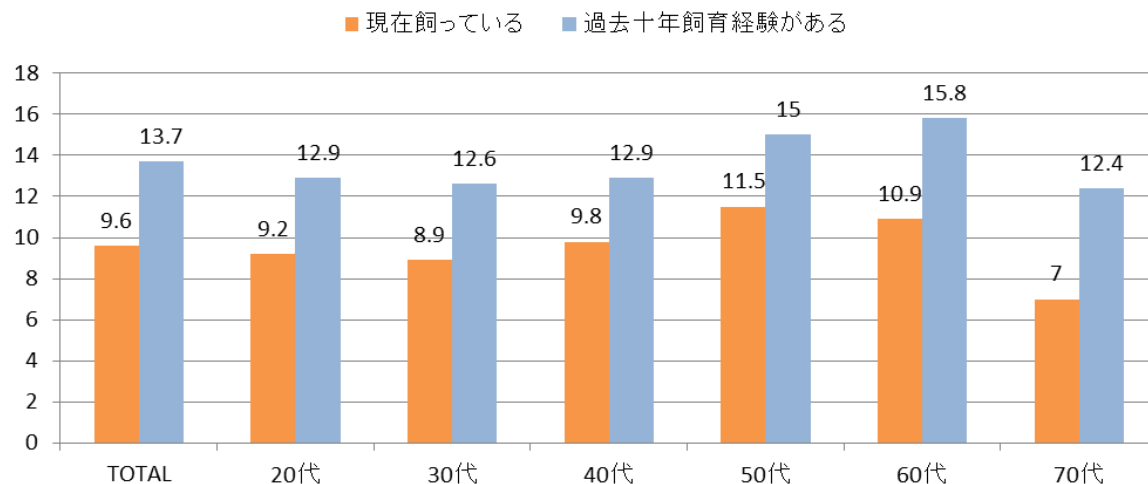
犬の60代：12.4%の減
犬の70代：10.8%

猫の60代：4.9%の減
猫の70代：5.4%の減

犬の飼育状況（現在と過去十年の比較）（%）



猫の飼育状況（現在と過去十年の比較）（%）



4. 准高齢者がペットを飼うのをあきらめなかったら…。

表1 年齢3区分別人口及び割合（平成26年、27年）－ 9月15日現在

区分	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上								
				70歳以上	75歳以上	80歳以上	85歳以上	90歳以上	95歳以上	100歳以上		
平成27年	人口(万人)											
	男女計	12683	1609	7690	3384	2415	1637	1002	501	184	46	6
	男	6168	824	3881	1462	995	633	351	150	42	8	1
	女	6515	785	3809	1921	1420	1004	650	351	142	38	5
	総人口に占める割合(%)											
	男女計	100.0	12.7	60.6	26.7	19.0	12.9	7.9	3.9	1.5	0.4	0.0
	男	100.0	13.4	62.9	23.7	16.1	10.3	5.7	2.4	0.7	0.1	0.0
女	100.0	12.0	58.5	29.5	21.8	15.4	10.0	5.4	2.2	0.6	0.1	
人口性比※	94.7	105.0	101.9	76.1	70.0	63.0	54.0	42.8	29.8	20.6	15.3	
平成26年	人口(万人)											
	男女計	12706	1624	7788	3295	2382	1590	964	477	171	41	6
	男	6179	832	3927	1420	980	612	335	141	38	7	1
	女	6527	792	3861	1875	1402	978	628	336	133	34	5
	総人口に占める割合(%)											
	男女計	100.0	12.8	61.3	25.9	18.7	12.5	7.6	3.8	1.3	0.3	0.0
	男	100.0	13.5	63.6	23.0	15.9	9.9	5.4	2.3	0.6	0.1	0.0
女	100.0	12.1	59.1	28.7	21.5	15.0	9.6	5.2	2.0	0.5	0.1	
人口性比※	94.7	105.0	101.7	75.8	69.9	62.5	53.3	41.9	28.7	20.7	15.7	

65歳～74歳の准高齢者は、平成27年で1,747万人

<犬>

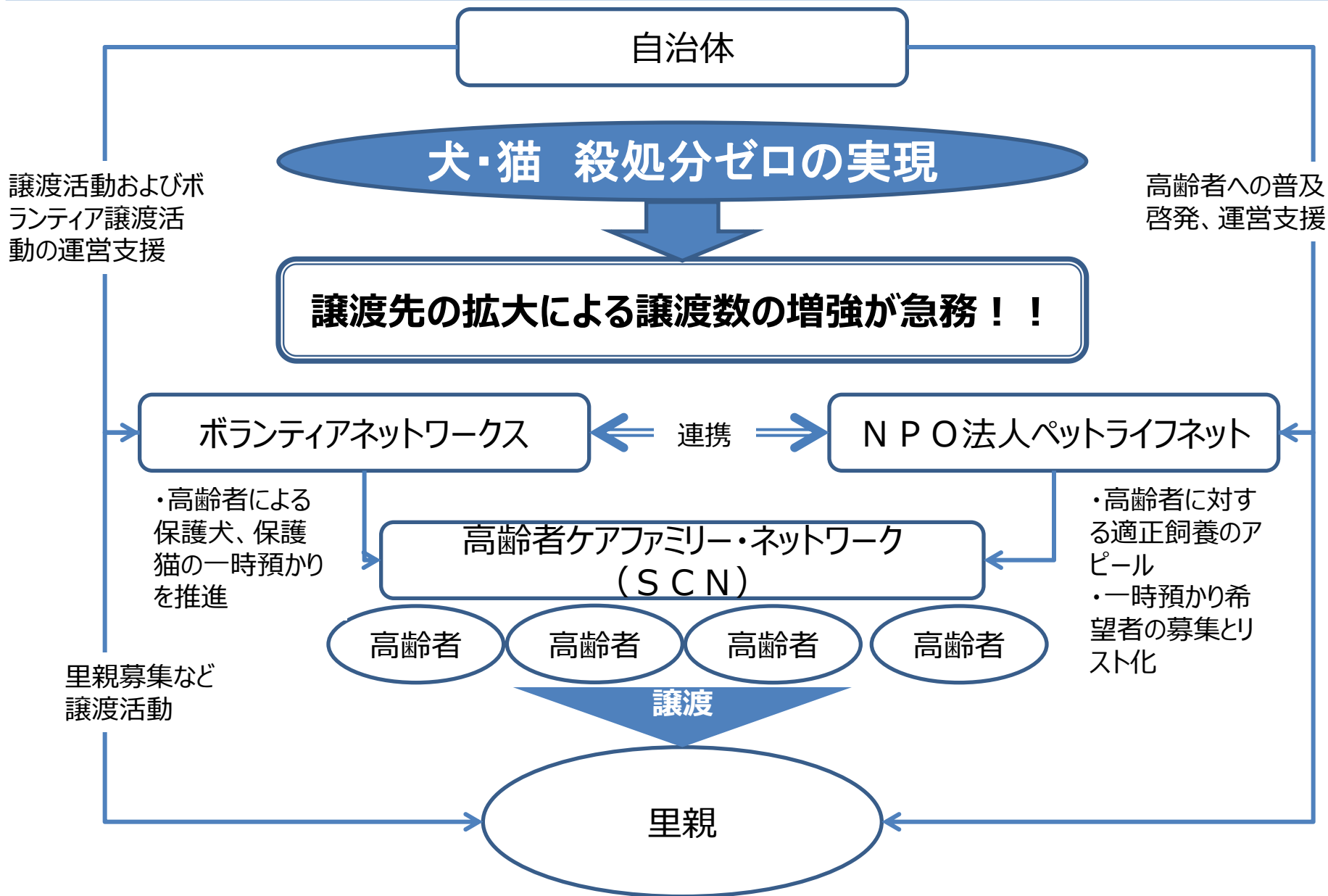
70代で年前と比較して犬を飼わなくなった10.8%の人が飼いはじめたら、
 $1,747\text{万人} \times 10.8\% = 188.7\text{万人}$

<猫>

70代で年前と比較して猫を飼わなくなった5.4%の人が飼いはじめたら、
 $1,747\text{万人} \times 5.4\% = 94.3\text{万人}$

現在の殺処分数を上回る、新たな譲渡対象者が生まれる

■ <殺処分ゼロ>を実現する『ペットの高齢者ケアファミリー・ネットワーク』のイメージ



■『ペットの高齢者ケアファミリー・ネットワーク』の条件と飼養内容

動物ボランティア団体
(保護犬・保護猫のレスキューと
里親募集などの譲渡活動)

NPO法人ペットライフネット
(高齢者に対する適正飼養のアピールと
ケアファミリー希望者の募集とリスト化)

連携



● 高齢者ケアファミリーの条件

- ① 犬・猫の飼育経験がある
- ② 75歳まで
- ③ ペットの飼育に適した住居にすむ
- ④ SCNの会員になる(年会費が必要)

● 高齢者ケアファミリーの飼養内容

- ① ペットへの給餌と健康管理(散歩など)
(食費やワクチン接種などの生活費はケアファミリーがもつ)
- ② SCNがマイクロチップを装着させ、年1回のペットの健康診断をおこなう
- ③ ペットが病気になった場合の医療費はSCNがもつ
- ③ ペットが飼えなくなった時はペットを愛護団体に譲返し、脱退できる

■ 高齢者のペット飼育を促進する『シニア里親制度』のスキーム

